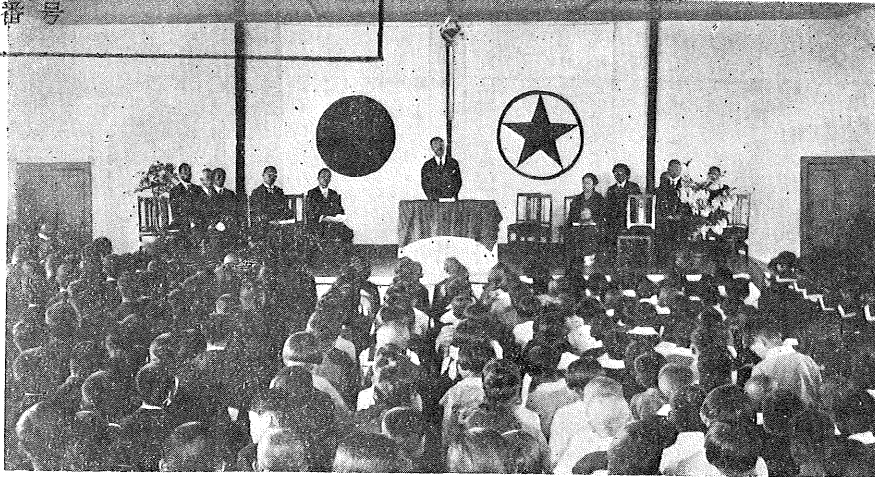
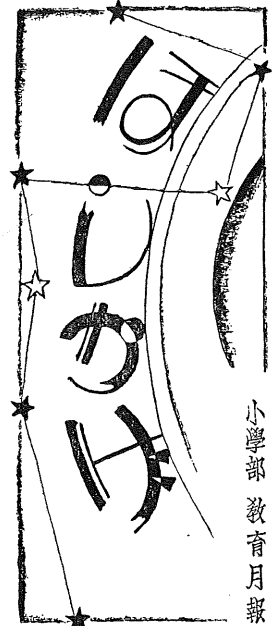


番号



場 式 念 記



小學部 教育月報

號 八 第

南園公頭ノ井寺麻吉外市京東
園 學 星 明
四〇三寺祥吉話電

創立十周年記念式

五月十五日 於當學園講堂

好晴に恵まれて學園創立十周年の意義深い式典は十五日午後二時文字通りの盛況裡に舉行された來會者約二百名、それに三部の職員生徒兒童て狭い講堂は飽詰め乍ら靜肅に、壽ぐ者も祝はれるものも今日の佳き日の興奮を感じた。最初園長の創立前後の回顧より將來の待望に互る式辭があり、永井拓相、藤井皇子御養育掛長、羽仁自由學園長赤堀後援會長、卒業生代表等の祝辭、山積する祝電披露の順に式程を進め、「明星の歌」の合唱に終了した。當日の祝辭を掲げて盛會の一端を偲びたい。

祝 辭

本日茲ニ本學園創立十週年記念式典ヲ舉行セラルルニ當リ一言祝詞ヲ述ブルヲ得ルハ余ノ洵ニ欣快トスル所ナリ

惟フニ教育ハ國民生活ノ淵源ニシテ畏クモ明治大帝ニ於カセラレテハ教育ニ關スル勅語ヲ下シテ國民教育ノ本義ヲ垂教シ給ヘリ 今上陛下ニ於カセラレテモ國民教育ノ振興ニ深ク大御心ヲ注ガセ給ヒ列聖ノ教育ノ事ニ御軫

念在ラセラルル宏謨ヲ恢弘在ラセラレ屢々教育ニ關スル優詔ヲ下シ以テ教育ノ重ンズベキ旨ヲ昭示シ給フ我等臣民ノ寔ニ恐懼感激ノ至ニ勝ヘザル所ナリ

本學園ハ克ク聖諭ヲ奉戴シ夙ニ獨特ノ理想ト信念ニ基キ小學教育竝ニ高等普通教育ノ事ニ從ヒ其間幾多ノ苦難ト戰ヒ著々其ノ成果ヲ擧ゲツツアルハ邦家ノ爲洵ニ慶賀ニ堪ヘザル所ニシテ任ニ當ラルル各位ノ多大ナル勞苦ニ對シ衷心ヨリ敬意ヲ表スル次第ナリ我國現下ノ時局ハ益々多事多難ニシテ朝野人材ヲ要スルコト洵ニ切ナルモノアリ余ハ各位ガ夙夜勉勵愈智德ノ向上國民精神ノ涵養ニ努メ以テ此ノ國家的要求ニ順應スルノ覺悟ヲ有セラルルヲ信ジテ疑ハザルナリ

茲ニ本學園創立十週年記念式ニ當リ滿腔ノ祝意ヲ表スルト共ニ國民教育ノ本義ニ則リ本園設立ノ趣旨ヲ体シ其ノ目的達成ニ遺憾ナキヲ期セラレンコトヲ切望シテ已マザルナリ

一言以テ祝辭トス

昭和九年五月十五日

拓務大臣 永井柳太郎

祝 辭

皇子御養育掛長 藤井種太郎

私は本日來賓の一人として、お芽出度い式に列しまして、お祝辭を述べることが出来ますのは、非常な仕合せに存ずる次第であります。只今、創立當時からのこの學校の有様を承はり、私は實はこの學校を拜見するのは本日が初めてであります。これまで度々拜見したいと思つたのでありますがその機會がありません、本日この十年を記念するに當りまして、こゝに生まれて學校の様子を見て思ふだに幾倍も優つて居る立派な學園であるのに驚いて居る次第であります。これが誠に微々たる出發から今日の盛大を得ますに至つた間には、學校の先生達は勿論のこと、父兄の方々、また列んでお出でになるところの生徒の皆さんが、みな心を併せてこの學校を今日まで、こんなに立派に守り育てられたことと思ふのであります。誠にお芽出度いことと思ひます。

思ふに、日本に學校は數知れぬほゞ澤山あります。然しながら小學校からずつと上の方まで續いて立派な人を作らうとして樹つて居る學校は誠に少いのであります。幸ひこの學校はその點において他に見られない特色を持つて居ると思ひます。なほまた今日の學校といふものは、小さいところから大きくなるまで續いて教育を受けぬばかりでなく、學校の中が支離滅裂になつて居る、この點においては日本の昔の寺小屋の教育の方がまさつて居るのではないかといはれて居ります。學問は出来るけれども人間が出来ない、これが現今の日

本の學校の弊であります。この點においてこの學校は誠に良い特色を有つて居られると思ふのであります。

なほこの學校においては、赤井君また上田君のやうに、私さと同じ學校に學んでゐる方々が居られるといふことが、私に一層の親しみを感ぜさせて居ります。私共は同じく同窓生としての教育を受けたのであります、私がこゝに思つて居るころは、やはり私共を教へて下さつたころの先生が、その人格をもつて立派に私共を引張つてゐて下さるからで、それは今日まで忘れ得ないところであります。この學校に學んで居られるところの方々も、さうか先生の方々の立派な人格に觸れて、今後十年の間には社會に出て、大いなる立派な方々になられるかと思ふと、心の中に感激を禁ずることが出来ないであります。これまでの發展を以てさらに發展を加へ、さうして内面的にも益々深く立派な人間を作り、また學んで居られる方も立派な人間にならうといふ心持をもつて、他日立派に成り立たせることを切望して止まぬ次第であります。この學校の前途洋々たることを思つて簡單ながら今日の祝辭と致します。

祝 辭

自由學園長 羽仁もと子

私は今おつしやつた自由學園の一人のものであります、然しこゝには始めて皆さんにお目に懸つても、大變親しいお友達のやうな氣がするし、また皆さん方を少しは知つて居る氣がするので、小學校の方、女學校の方、中學の方——來年、自

分の方にも中學が出来るので、まだ見ない友達を見たやうな心持がするので。それにまた自分の學校でも三年前に十周年の祝ひがありました、別の學校の一人のもの、自由學園、明星學園など、學校は幾つもありますが、この日本の教育のために働くといふ立場からは同じだと思つて居るものですから、私も皆さんの中の一人の仲間だと思へて頂くことが出来る。それからまた赤井先生を始め、この學校の先生方も私共の學校の先生方と考へることが出来る。それで三年前に十周年の記念をした時の心持を思ひ出して、それと少しも變らないほゞのお喜びと熱心をもつて皆さんを見ることが出来て嬉しいと思ひます。

若し前からお話しすることを承はつて居れば、この懐しい生徒の方々に余程良いお話が出来ると思ひますが、今伺つたので、たゞほんの心から思ひ出たことのみか申上ることが出来ません。今も伺つたやうに學校が始まる時から、いろいろの方が御盡力になつた、殊に生みの親のやうにおなりになつた方々がある、最初のこの小學校にしても、また中學校、女學校にしても、このことを伺つて、これは明星學園のために生みの親であるけれども、同時に日本の教育のために皆さんが盡して下さつたことを、私も感謝すべき一人として、こゝから感謝いたします。來賓の方々を一々存じ上げません、けれども教育に熱心な方々と思ふものですから、本當に教育に携はる者として感謝致します。殊にこの學校の先生方がこんなに今日をお喜びになり、過去のことは、赤井先生がお話になつたやうに、皆さんの思ひの中にいろいろのこゝろがあらくなるだらうと、よくお察しするこゝ

が出来ます。どうぞこの學校が次の十年の間に、過去十年の間に發達したより、もつとく優れた發達をなさることをこゝから願つて居ります。

私は私立學校について、いつでもかういふことを思つて居る、私立の學校はかういふ種類の、明星學園とか私共のやうな學校の私立學校は、政府からお金を頂かない、またアメリカのミツションから、いろ／＼の方からそのことを貰つてゐないのです。それは經濟的には随分心配しなければならぬ、大變だと思ひます、けれどもその代り、ここから悪い意味の干渉をされることがない、また手續き一つを變へるのでも様々のお許しを乞はねばならないのが、私立學校ではこれは良いと思つたら、その時から、生徒に話し先生に話してみんな良いと思つたら、その時から實行することが出来る。私はそのことを思ひます、學校がどうして大きくなつたか、またなるか、赤井先生の思ひなり、皆さんの生徒——この學校は三百何人、私共の學校も同じやうです。その人達が毎日來るごとに、昨日まではかうであつたが、今日からはかういふ風にやる、これからはかうする、毎日々々考へて、それから實行することが出来る、さうするさういふ風になるか、お家に歸るとすぐ子供がそのことをいひます、また言葉でいつただけでは分らない、またその人に良い事が昨日には少しも出来なかつた、然し毎日さういふ風に本氣に生徒と一緒に暮して居れば、さうしてもかういふ風に子供が變り、大變によくなつて來て、生徒各自が上品になり自分の學校に良い氣風を作り、悪い意味でなく本當の意味の宣傳を致します。さうしたらこの學校に入り用なものはみな與へられま

す。私も學校を作りまして六年位まではちつとも苦勞をしなかつた、七年目位から十年まで、その三年或は三年半位の間に非常に苦勞をしました。けれどもその後段々、初めにしたことが基礎になつて、それから先きはちやんさ必ずうちの中で本當に良いことをしてゐたら、毎日々々活きた教育——ではない、生活を生徒と一緒にやつてをれば、入り用なものは皆與へられる、自分の信仰でさうしても思ふことが出来る、本當に感謝であります。

一番お終ひに、生徒の方にいひます。この學校をよくしたために、みんなが良い子供になる、もつとく良い子供になると、年々良い學校になると思ふ、その意味でのお芽出たうを申し上げたいと思ひます。

祝 辞

後援會委員長 赤堀 郁太郎

創立滿十周年の記念會を開くに當りて、私が學園の後援會を代表いたしまして、かつ學園の生徒兒童の父兄を代表いたしまして、お祝ひの言葉を申し上げます。

私共は教育に對しては興味をもつて居りますが特別な知識は持合せて居りません、かつ經驗も持つて居りませんが、素人考へに現在のやうな社會の變遷の甚しい時におきましては、かつて定めた教育の方針も、現在の人心の要求するものになり随つて教育の制度組織が現代の教育を受けて居りますに人々ミびつたり合はずして、何らかそこに喰ひ違ひが出来てはゐないかといふ感じをもつ

のであります。思ふに明星學園の生れ出たのも、そんなことが始まりであります。赤井先生を始めとしまして、創立以來今日に至るまで協力して、この學園のために盡された諸先生が、よりよき教育、即ちよりよく時代に適合したる教育を、言葉を換へて申しますと、新しい教育理想を具現せんがために、この學園を作られたのではないかと思ひます。また生徒兒童の父兄もさきに申したやうな氣持があつて、先生方の理想、先生方の氣持に共鳴するところのものがこゝにありましたためにこの學園に子供を託し、また學園を微力ながら後援して來た、それが學園をして今日に至らしめたのではなからうかと思ふ次第であります。

最初において、さきに園長の御報告になりましたやうに茶郷さんの特別な御後援がありました、それ以後の學園は財政において幾多の困難があつたのであります。その後において赤井先生を始めとして、先生方各位の御苦心の並々ならぬものがありましたことを、私共、側から眺めて居りまして深く御同情いたして來た次第であります。然しながらさにもかくにも十年間に幾多の困難があつたにも拘らず、決して退歩は致しませんでした、思つたほどでないにしても、一年々々少しづつでも進歩して今日の場合になりましたものは、赤井園長の理想の下に、園長先生をお援けになる方々の協力、またそれらの方々の後立てになりまして、微力ながら犬馬の勞を取りました父兄の協力の賜物と思ふ次第であります。

現在の社會を眺めまして、學園創立當時、同様に、現在の教育は、現在の時代に全部よく合つて居ると思はれないのでありまして、教育上に

おいて幾多改革を要すべき點がないではなからうかといふ考へをもつものであります。でありますからして、この後の學園もやはり従來と同様の理想をもつて進められる、また進めて行き、よりよき教育のれめに奮闘せらるゝことが學園の使命ではなからうかと思ふのであります。理想のために生きる時に免れ難いのは貧乏であります。財政上の困難は必ずあるものと思ひます。そこが學園の特色であり、またその特色が學園の使命ではなからうかと思ひます。私共生徒兒童の父兄は微力でありまして思ふだけのことは致しませんが、先生方の教育理想に共鳴致して、出来るだけのことを致して、犬馬の勞を取らうと致しました、但し私共の致しますことはたゞ犬馬の勞であります。たゞ財政上の世話を致すに過ぎないのであります。教育上のことに彼是干渉致すことや、立ち入ることは決して致さない積りであります。

さうぞ今後一層、園長先生を始め職員各位、また生徒兒童の父兄が、魂の結びつきを廣く致しまして、眞に同心一体となりまして、學園に與へられたところの教育理想のために、貢獻せられんことを切望する次第であります。後援會の役員の一人と致しまして、今日の學園の内情につき、いろいろ承はつて思ひましたその感を述べ、いろいろの感謝を申してお祝ひの言葉と換へたいと思ひます。

祝電

廣島文理大學長 吉田賢龍
既往十年ノ苦心努力ニ對シ深厚ナル敬意ヲ表シ將來ノ進展ヲ確信シテ今日ノ式典ヲ祝ス

御盛典ヲ祝ス	靜岡高等學校長	金子健二
遙カニ盛典ヲ祝シ校運ノ隆盛ヲ祈ル	學園顧問文學博士	長田新
多年ノ御努力ニ對シ深甚ノ敬意ヲ表シ遙カニ御盛典ヲ祝ス	廣島文理大學事務官	白石石
十年ノ感更ニ深シ遙カニ學園ノ彌榮ヲ祈ル	大阪府視學前職員	山本德行
御盛典ヲ祝シ彌榮ヲ祈ル	朝鮮光州高普校長	小林致哲
遙カニ十年ノ御發展ヲ祝ス	廣島高師教授	曾田梅太郎
御盛會ヲ祝シ將來ノ御發展ヲ祈ル		鈴木英吉
光榮アル記念日ヲ祝ス		新諦五郎
御盛典ヲ祝シ御發展ヲ祈ル		山崎博
今日ノ佳キ日ヲ祝ス		松本義一
輝ク若葉ニ大イナル夢描キテヨ		吹本喜一
謹ンデ記念式ヲ祝ス	大連	富田貴一
學園ノ隆盛ヲ祝ス	前職員	藤森朋夫
創立記念日ヲ祝ス	前職員	尾形鶴吉
十周年ヲ祝ス	前職員	大高義一
創立十周年ヲ祝ス	靜岡	横井禮一
創立記念ヲ祝ス	平壤	有馬純勝
御盛會ヲ祝シ發展ヲ祈ル		高野登

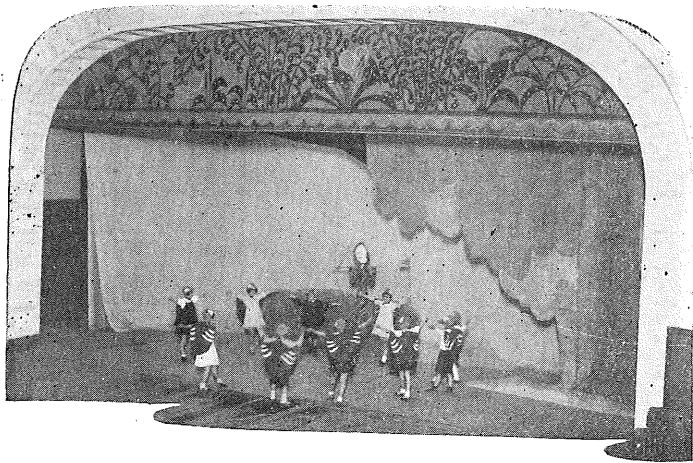
記念學藝會

五月十九日午后於日本青年館——前号掲載のプログラムに據る十周年記念の學藝會は神宮外苑の和やかな五月晴の午后、日本青年館で豫定通り公演された。

各役員は當日朝から詰めかけて大重の準備、午后二時には來場者凡そ二千名に達した。

關口、照井兩先生指導の音樂の部に幕を開けて、小波先生指導の舞踊、孰れも皆場所怯もせず小學部照井先生指導の劇で終幕となつた。

思へば新學期開始以來僅々一ヶ月、それも學習の餘暇の練習——どんな結果になるかと杞憂を抱いた事乍ら、この日の出來榮で一同つくづく嬉しい氣持になつた程に思はれるし、子供達の努力も褒めて、ことだ。詳しいことは自盡自讀を止めて、當日、來場の方々の批判にお任せしたい。



上演劇「栗畑」の一場面

卒業學年なるが故に

照井猪一郎

△當然の事ながら、もう六年の卒業期になった。夢のやうだとよく言ふが、少なくとも私達にとつては此語は修辭でなくて實感である。せめてもう一年も言つたところでそれはあまりに愚痴っぽい。それは願ひでなくて本當は悔なんだ。鬼に角別れる時の來た事は避けられない事實なのだ。此氣持が子供達同志にも無心に働くものか、此の日頃は荷めの素振りに言葉の端にも、ほい笑ましい和やかみ、しんみりとした親しみが深まつて行くかに見受けられる。

△折角六年の年月 睦み合つて來た同腹の一團である。ならばこのまゝ學園に留まつて貰ひたい。いふのは教へた者の親心である。事實又留まつて貰ふ爲めに延長した學園の中等部でもあるのだ。私達に見ればこの子を見てもこのまゝ此處に留め置くことが最も安全且つ當然であり、御両親にしてもそれが將來に悔を残すことになることは考へはしない。併し

△家庭にはそれぞれの事情があるものだ。今年に限つて卒業生の悉くが學園教育を繼續する爲めに居残るものとは考へられない。

否其子によつては學校側から寧ろ進んで他の方面に轉向することをお勧めする向もあらう。女子ならば實科、男子ならば實業學校方面といふ風に到底征服し了すべくもない英數漢に責めさいなまれるよりは、最初から適性に向つて邁進する方が將來の爲めにも現在の爲めにも其子としては幸福だからだ。

さうした場合、それ／＼の望むところの學校に入れてやりたい、入るやうにと希ふ心は教師も親も變りはない。ともあれ

△いろいろの事情で他校に轉じなければならぬ方があつたら御遠慮なく打明けられたい。吾々は學校として許す限りの手段と方法を以て毎日の學習の中にその心構と考慮を加ふるは勿論家庭での入學準備についても連絡を保ち、親も子も教師も三體同心になつて同一目的に努力したいと願ふものだ。かくして居残るものも去るものも這般の事情をお互に充分に理解し合ひ、親和と同情の雰圍氣を以て學園を押し包みその學風を擁護するやうに最後の努力を傾けて戴きたい。それは後から歩み來るものへの此上もない高價な置土産である。

△萬事がかうした 霽々たる氣分の中にこの一年の生活が展開するものならば子供同志が通りすがりの廊下の會話にも「君みつちり準備してうまく入つてくれ」「君達も居残つてうんと明星の氣勢を掲げてくれ」かうした事が期らかに無邪氣に、眞剣にとりかはされるであらう。それは教師達としても父兄にしても涙ぐましくも嬉しい光景だ。

去る者と残る者との間に睨合ひのやうな、さぐり合ひのやうな暗い憂鬱な生活を最後に招致するにしたらずそれは親教師の不用意が招く此上もない不幸だ。

△最後まで深い信頼と温い和樂の中に堅く抱き合つて、名實共に楽しい卒業式を迎へしめよ。其のよき印象は實社會に於ても彼等の生涯を結付けて人生の好伴侶たらしめるであらう。

御挨拶にかへて

原田満壽郎

この四月權威ある學園に参りまして、新らしく児童と暮すことの出來ました事は誠に私として喜ばしいことでありますと共にあかるい希望と信念の許に最善を盡す覺悟で居ります。

『児童の爲めに』『子供のために』この事を何時も私の生活の基調と致す考へてあります。時期甚だ遅れて居りますが以上舌足らずの言葉で御挨拶まで申し上げます。

歩み來れる生活を内省して。

二十七名の児童が大きな歡喜と希望と期待と同時に又一抹の不安さへ抱いてこの學園に第一歩を踏み出しました日から丁度二ヶ月餘の間、辿り來れる路は確實でなかつたにしても全く眞剣に、よりよき児童の生活の擴充を念願し期待して努力の生活を續けて参りました。

児童の肉体と共に生れ出ました素質は、其の児童の生涯を貫いて強く制約するものでありませうが、この本來の定められました傾向は環境によりて助長も又或る程度の方角の轉廻も出來ることと思つて居ります。ですから二十七名の児童の性向の動きを凝視してよい環境を與へて各児童の到達することの出來る將來の過程を展開せしめ度いと言ふのが今日までを通して更に將來への私の主張する点であります。

學校圖書室の設置

學校圖書室の必要は今更云々するまでもないことで、學園でも早くから懸案になつてゐたのでしたが、今度此の十周年を機會に學級圖書を持寄つて圖書室の中に形ばかりではあるが備へることにしました。一年間に四五冊の教科書だけしか讀まないやうでは讀む力が養はれるものではありません。讀む力といふのは漢字や語句などの所謂形式的な力をいふのではなくて、その上に思想を深め感情を陶冶することです。そしてその讀む力こそが人間さか人格とかいふものと同一のものではないでせうか。だからこそ圖書室は單に好きな本を澤山讀ませるのではなく、教師の計畫と指導の下になされなければならぬものになるのです。更に又、私どもが多くの本を讀ませることは決して教科書を輕んずるからではなく寧ろその價值をいよゝ大ならしむるためのものです。自力で豫習し、不足であつた点を自ら補充することによつて教科書の内容が擴充され深化されるためには、どうしても教師の指針によつて各自が自由に參考書を引張り出す位にならなければならぬと思ひます。今の所では大部分童話に類するものばかりで、さうした望を果たすまでにはまだ／＼及びもつきませんので、とにかく各級から一人一月五錢づつ徴收して漸次充實の豫定です。

自治會の仕事リーダー（五六年）

圖書	掛圖	理科	手工	衛生	栽培	飼育
赤井 大橋	柳沼 高橋	佐藤 大井	江川 森	山本ふ 加納	小室 小川	小林 横山
内藤 西村	中村 嵐田	武田 濱村	照井 矢野	岡中 恩地	霜田兄 野村忠	石川 山本一
萩井兄 横川	山本浩 藤田	武南 久原	須郷 加藤壽	服部 玉野	渡邊 野村歌	霜田弟 加藤ま
宇賀神			萩野弟	市村	大津	

日光旅行の記

第一日

眞暗なトンネルの中からみかん色のきれいな電車が大きな音をたててゴーと走つて來た、皆我先きにパタ／＼と走つて行つてドアもあかない中に乗りこもうとしてゐる。

まるで蟻の大軍のやうに一つ／＼のドアの前にかたまつてドアのあくのを今か今かと待つてゐる。スカーと氣持よくあくさ地下鐵は珍らしい省線の様に落着かないで、我先に入りにこむ。こしかけないうち動きだしてよろけたりする。

間もなく雷門についた下りるさきふに明るくなつた東武電車に乗りかへた。

ひろびろさしてはてもなくつづいてゐる田畑は青々として風はさら／＼おとをたててゐる。田圃や島には澤山お百姓さんが働いてをり馬まで田の中を機械をつけて耕してゐた。遠くかすかに見える並木の街道には牛をおひながら歩いてゆく人が見える、繪のやうだ。

こんもりと茂つた木にかこまれてゐる農家も所々に見へた、苗木の行列も風に頭をさげてゐる、青田を渡る風はすが／＼しい。

間もなく話に聞いてゐた杉並木にさしかかつた。見上げるやうな大きな杉がどこまでも／＼つづいてゐる。これは今から二百六十年前に松平正綱が植えたのだ。

この並木も通過してしまつてはるかかなたにうす白く日光の山々が見えて來た。皆窓から顔を出して「見えた」「見えた」「山が見えた」と大さわざをする、すすむにつれて山の姿もだん／＼はつきり出した。新賀沼のへんからは男休山も見えて來た、私は景色を見てゐながら「宿屋はどんなから、そしてどんな所にあるのかな」などこんなことを考へてゐた。いよ／＼待ちに待つてゐ

た日光に着いた。町はみんなおみやげを賣る店ばかりにすうりさならんでゐる。

日光電車で少しゆくとすぐ大谷川にさしかゝる、赤い神橋が見える、橋がきれいなすきとほるやうな大谷川の水に姿をうつして虹のやうに綺麗に見へた。

河にそつて走つてゐた電車がはんたいの方にすこしまがつて走り出した、しばらくは山の麓の木の深くしげつてゐる暗い所を通つたがすぐ又町に出た。「つたや」へついた時はもう泉屋の人が迎ひに來てゐた。

今までは電車の中で氣がつかかつたがとても寒い。東京とはまるで氣候が變つてゐると思つた。

皆荷物をあづけて東照宮見物に行つた。始め輪藏に行つた、外の女學生が澤山來てゐてとても混雑してゐた。化燈籠、唐門、飛越の獅子、倒の麻鬼除桂、廻り燈籠など色々見て説明もしてもらつた、陽明門も見たいし綺麗でもなかつた。明日の一年に一度のお祭に出す馬を入れておく廐にも入つて見たお小皿には古くなつたやうな人蔘が澤山もつて置いてあつた。

見物をおへて歸りかけた時ざああと夕立が降つて來てものすごい雷の音が／＼と天にひびくやうだつたが東照宮を出て通りへ來た時はもう小降になりつたやへついた時はからりと晴れて空はなんのこともないやうな様子をしてゐるへんな天氣もあつたものだときつねにだまされた見たいだつた。お腹のすいた所でお辨當を食べたのでとてもおいしかつた。

いよ／＼此所も出發し馬返へ行つた。馬返しからはもう馬でも登れないさうだ。ケーブルカーで上まで上つたトンネルを二つこした上にはもう自動車がつてゐた。しばらく見晴し台にのぼつて見た。遠くには東洋第一のスケート場が見へそのそばに陛下の御休所が見へた。近くには磐若方等の瀧も見えた。それから鹿のこりやう場もみへ、水でかこまれて青々としたひろい牧場には點々と鹿が星のやうになつて見えた。

夏季生活の豫告

例年の夏季生活——今年も、はやその準備工作を進める時期になりました。學園としての一貫した系統は變化ありませんが、幾干なりとも進歩した豊かな生活を希つて、それ／＼實地踏査等も終つて別項の如く大綱を決定しました。申すまでもなく夏季生活は重要な學習なのでありまして、私共は深くその意義を認め、従而是が爲の研究調査を繼續して居るのであります。殊に例年、保護者各位の熱心な支援と理解によつて、殆んど八九割の兒童の参加を見て居り、この一事のみに對しても私共は、各位の信頼に叛かぬ様方全の計畫を進めて居ります。四年以上は相當遠隔の地に實施する事故、手離す方もさること乍ら、指導者として全責任を負ふ者も寔に眞剣な緊張を以て終始して居ります。この點は今更乍ら充分御安心の上、特別な事情なき限り参加させる様切望いたします。孰れ次號には詳細な案を發表致し、各級でもそれ／＼父兄會を開いて協議する筈ですが不取敢大綱のみ掲載することにします。

指導	牧	中村	五十嵐・安藤	照井・原田
解散	廿八日午後二時	廿五日午後二時	廿三日午後四時 廿四日午後四時	廿五日午後五時 廿六日午後五時
集合	廿五日午後三時	廿一日午後三時	十六日午前七時 東京驛(七時四十分東京驛發)	十六日午前六時 東京驛(七時四十分東京驛發)
經費	八十錢	五十錢	十圓	十圓
場所	學園	學園	靜岡縣伊東町海 岸(三濱館止宿)	信州輕井澤 (明星學寮止宿)
期間	自廿五日 至廿八日 (四日)	自廿一日 至廿五日 (五日)	自十六日 至廿三日 (八日)	自十五日 至廿五日 (十日)

あたりは山ばかりだ、見えるのは小さな家の屋根ばかりだ。

見晴し台をおりてこんどは乗合自動車に乗った。女の人が説明をするのを聞くと箱根に行つたやうな氣がする途中にはトンネルが二つあつた(二百四十米四百二十米)中宮祠で自動車を下りて歩いた。間もなく中禪寺湖が見えはじめた。

湖のほとりには目のさめる様に美しく櫻が咲いてなり見上げるやうな杉の太木が立ちならんでゐる。

通りには戸をしました暗さうな家ならんでゐる。なんだかさびしくなつた。「今お母さんはなにをしてるかな」等と思つた。

すぐ泉屋についた。思つたより廣く綺麗であつた。先づ部屋をきめていたゞいて荷物をおろした。お入つて食べてしばらく休んでから身輕になつて華嚴の瀧を見に行つた。涼しい林をすぎると丸太うちよつとしただんがある。

どこまでも下りてゆくと跡は途中できれて鐵條網がはつてあつた。こゝからのぞいて見ると、岩のちがつてゐる堺目がよくわかつた。皆が見てからすぐ歸つた。夕方二十五錢お小使ひをいたゞいて御飯になるまでおみやげを買ひに行つた。ねむり猫を買つて歸つてあけて見たら所々かけてゐるのが入つてゐた。あんなに先生が注意をしてくださったのにこんなのを買つて來てしまつた。今からさりかへに行くのもはづかしい。

よししてしまへと思つたりこんなのはいやだなと思つたりした上と／＼やめてまにあはせてしまつた。

夕方女は女でお風呂に入つた、多勢でさわいでとても面白かつた。

晩御飯がすむと先生も一緒に遊んだ。晩四五年皆で學藝會を開いた。

お話、手品、笑話、歌、色々の事をして夜は楽しいれむりに入つた。(五年 平澤)

第二日

ふと目をさますともうみんなが何か話して居た。私は寢られつこないと思つて眠い目をむりにひらいておしやべりをし出した。四年生はもうソロ／＼起き出したのに私達はまだいけないのだ。市村さんは何度も／＼先生の所へ行つてゆすぶつたりつれつたりした。それなのに先生はまだ寢てゐるので私はもう洋服を着てしまつた。やつと起きていゝと云ふ先生の聲がした。私は顔を洗ふとすぐ二荒山神社に行つた。外へ出てフツツと息をしたら白く見へた。まるで冬の様だ。

神社に着いて石だんを登ると銅で出來た鳥居があつて左の方に眞赤なお水屋があつた。お社はとても綺麗だ。そして入母屋作りだつた。少し遊んでから宿に歸つた。御飯がすんでからモーターボートに乗り込んだ。中禪寺湖を廻るのだ。やがてモーターボートは勢よく走り出した。鏡の様な湖の上をスー／＼走るのだからとてもいい氣持だ。遠くにまだ雪がボツ／＼と残つて居る日根山が見へて來た。小さな上野島も見へて來た。この島は勝道上人のお墓がある。出八丁島はグーッと出て居る。やがて歌濱に着いた。そこから男體山を見るととても綺麗、立木觀音におまゐりしてから記念の寫眞をとつた。私は後の方だつた。

又モーターボートに乗つて船着場の前まで來た。今度は徒歩で山を下るのだ。先生の御注意を聞いてから出かけた。自動車は何台も／＼來てとても危ない。しばらく行くに近道のある所へ出た。そこで四年と五年は別れてしまつた。近道は細くて急なのでこんな人が二三人居た。中の茶屋の磁石岩の所に來た。水筒のフタをくつつけたけれどなんでもなかつた。急な坂やザリ／＼の道を歩いて行くといつの茶屋の所に出た。ザア／＼と云ふ水の音に驚いてふりむいて見たら瀧が流れて居た。私は手すりの所へかけよつて行つて見た。右は磐若、左は方等

日記抄

五月一日 學園の五月は鯉幟樹立に始まる。この日も晴れた空に鮮かな吹流し、眞鯉鯉が泳ぐ。

五日 端午の節句、恒例の全校行事を、豊島園へ遠足。絶好の日和に加へて新年度最初の全校的行動に一同楽しく無事帰宅。

十五日 午後二時創立十周年記念式舉行。どうかと思はれて居た天気も申分なく晴れて、來會者豫想以上に多い。約二時間一同創立當時を偲び今後の發展を祈り、祝菓を頒つて終る。十九日 午後一時半日本青年館で音楽、舞踊、劇の公演をなす。來會者約二千、盛況裡に五時終了。

二十六日 海軍記念日が明日曜に當るので、今日十一時から講堂で相良海軍少將の實戰談を聞く。午後一時から四、五、六年の父兄會を開く。

二十八日 羽田海岸に全校汐干狩にゆく。

三十日 午後一時から一年最初の父兄會を開く。

六月一日 四五年日光旅行に立つ。案じて居た空模様も好轉して一同元氣で出る。引率、安藤五十嵐両先生。

二日 日光旅行隊無事歸還。

五日 東郷元師國葬。代表児童島山附近に送葬、他は弔意を表して休業す。

十三日 今年度夏季生活の大綱を協議して、二三年は學園、四五年は伊豆伊東海岸、六年は輕井澤に決定した。

十五日 府會議員十五名來校す。

の瀧だ。方等の瀧は白布をふはりとかけた様だ。しばらく見てからそこを出發した。自動車道路にまた出た。まがり角の所ではいち／＼見てから行かなくてはならない。もうつかれて、歩くのがいやになつた頃やつと馬返の驛に着いた。キヤラメルを食べたり、スタンプを押したりして居たら四年生が後から來た。「い、所見たんだよ。本エ君」とみんな自慢して居る。「とつてもい、瀧を見ただよ」可笑しいくらい自慢する。少しの間休んでから電車で日光の町に向つた。

ギョウ／＼づめて暑くしようがなかつた。昨日の茶屋に入つてお辨當を食べた。御飯がすすむとすぐにお祭の行列を見に行つた。これはめつたに見られない物ださうだ。もう見る人が一ぱい來て居る。その中を押しくらしながら入つて行つた。そして前の方に出了。行列は少し進んで來て居た。前の方を男女が掃きながら來た。その後から神主さんと巡査が來、その後からは馬に乗つた人、槍持、稚兒、侍、神主、殿様みたいな人など色々な人が「ゾロ／＼ゾロ／＼」來た。それがとても長いので驚いた。鎧を着た人はきれいでピカ／＼光つて居る。稚兒はとても可愛い。行列がだん／＼後の方になつたらワーワーと云ふ聲が聞へて來た。見るとそれはおみこしなかついで來るのだつた。そばに來て居た人がお金をなげたらお猿の面を背中につけた子供がそれを拾ひに飛んで來た。行列が行つてしまつてから私達は人ごみをくぐつて輪王寺に入つた。そして昨日見たとほりにもう一ぺん見た。東照宮にも入つた。

店に戻つてからお小づかひをもらつて買物をした。私は又三品買つた。私と妹のあまりでいやにへうを買つて上げた。まだ早かつたけれど驛に出かけた。驛に行つたら人が一ぱい居て中々こんで居た。一時間餘りも買物だの見物だのしてゐたのでたいくつで仕方がなかつたアクビばかり出て居た。

やつと電車に乗る時刻が來た。みんな切符のかはりの

赤いセルロイドで出來た札を出すの大急ぎで乗つた。やがて電車はあの日光にさよならをして動き出した。

(五年 本多)

紹介

學園の父兄で現に教育事業に携つて居られる今村正一氏が今回

最新家庭教育

精神衛生より見たる

と言ふ本をお出しになりました。内容の大項は

- 第一篇 家族別に觀たる家庭教育
- 第二篇 年齢別に觀たる家庭教育
- 第三篇 感情別に觀たる家庭教育
- 第四篇 環境より觀たる家庭教育

附録として

精神衛生について。K子さんの失戀と死。櫻内本子嬢の自殺の精神分析。

となつてゐます。子供の父として、人の子の師として、且又學究徒としての全氏の著述は我々教育者は勿論、殊に子供の教育に理解と研究を有たれる學園の父兄達には良い參考になると思ひます。殊に第三篇は獨自の研究で斯界に大きな炬火を投げたものと申してよいでせう。(發行所三省堂 定價一圓八十錢)

餘滴

◆記念式の祝辭を採録することの出來ましたのは武南高志氏の御厚意によるものです。速記のまゝにして置きましたが、この方が反つて氣分が出て良さうです。

◆別項今村氏の著書は貴重なものだと思ひ、特に御紹介申しました。皆様の御愛讀を切望いたします。

◆日光旅行は別に記事として載せませんが、記録された子供の作品によつて御報告に換へる次第です。

◆第九号は來月十日に發行の豫定です。四百字二三枚程度で御投稿願ひます。本号は些か乾燥の氣味があります夏になり次第乾燥を防ぎたいと存じますので。(五十嵐)